

なごや認知症

NEWS

キャラバンメイト、新たに100人養成

認知症を理解し、認知症の人と家族を温かく見守る『認知症サポーター』。その認知症サポーターを養成する講座の講師役となるキャラバン・メイトが、名古屋市で新たに100人誕生しました。今後は、認知症の普及啓発を目指して、各区でオレンジリングの輪を広げていきます。

市キャラバン・メイト養成研修開催

新聞・テレビで認知症の話題を目にする機会が増えていますが、認知症に対するマイナスイメージを抱いている方も多いと思います。認知症について正しい知識を持ち、認知症の人と家族を地域で温かく見守る『認知症サポーター』を増やす取り組みが全国で行われています。名古屋市では、その取り組みの一環として、認知症サポーター養成講座の講師役となるキャラバン・メイトの養成研修を9月1日に開催し、いきいき支援センター職員、地域の福祉専門職、名古屋市交通局の職員の他、今回は若年性認知症当事者1名が研修に参加。医師から認知症の基礎知識を学び、実際の認知症サポーター養成講座の企画づくり、グループでのロールプレイと、盛りだくさんの内容で丸1日の研修が終わりました。受講者は「独立型メイト」としていきいき支援センターに登録し、今後は各区において、地域、企業、学校など、多くの方々が認知症について理解を深め、『オレンジリングの輪』が広がり、つながっていくように活動を進めていきます。

◆認知症サポーターの状況

平成28年9月末時点で、認知症サポーターは全国で800万人を達成しました。新オレンジプランで提示されている平成29年度末の認知症サポーター数の目標に到達しています。ちなみに、名古屋市では28年度9月末時点で約9万人の方が認知症サポーターを受講されています。

また、キャラバン・メイトは、9月末時点で586人となっており、今後も年に1回養成研修を開催する予定です。



認知症サポーターキャラバン



なごやの認知症の今が分かる

●発行●

名古屋市認知症相談支援センター

✉ n-renkei@nagoya-shakyo.or.jp

☎ 052-919-6622 ☎ 052-913-8553

※本センターは、名古屋市社会福祉協議会が名古屋市から委託を受けて実施しています。

RUN伴「当事者の声をつなぐ」
若年性認知症 あゆみの会、走る

RUN伴 (RUN tomorrow) は、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを目指して、認知症の人もそうでない人も、みんながタスキをつないで、日本を縦断するプロジェクトです。今年7月に北海道北見市を出発し、11月に沖縄県那覇市までタスキがつながります。9月26日、RUN伴中部ブロック名古屋ルートが開催され、名古屋市若年性認知症本人・家族交流会「あゆみの会」メンバー総勢20名が参加しました。西区の円頓寺商店街から名城公園を経由して北区役所までの約3キロをお揃いのオレンジ色のTシャツを着て走りました。暑い中でしたが、みんなで完走！喜びを分かち合いました。



黒川の北区役所前にて、ゴール後の記念撮影。

すすめ！あなたのまちの推進員（第一回）
北区、認知症カフェ検討会開催

北区

このコーナーでは、「認知症地域支援推進員（略して推進員）」の取り組みを紹介します！推進員は、各いきいき支援センターに1名ずつ配置されている「認知症にやさしいまちづくり」を担う専門職です。

記念すべき第一回は、北区の取り組みについてご紹介します。北区では、「北区認知症カフェ検討会」を開き、毎月、認知症カフェ（※）の運営者などが一堂に会して情報交換する機会をつくっています。

※「認知症カフェ」とは、認知症の方やその家族、地域住民、専門職など、誰でも気軽に集い、交流する場です。名古屋市内に登録したカフェを「なごや認知症カフェ」と呼びます。



北区のカフェは現在12箇所。主に介護サービス事業所や福祉施設が主催しています。検討会を通じて、運営者同士の横のつながりができ、悩みを共有したり、アドバイスし合う関係ができています。

検討会は、推進員の加藤さんと田中さんを中心に、カフェの有志メンバーで企画・運営。

「みんなで北区を認知症にやさしいまちにしよう」という機運が高まった」、「認知症カフェの認知度アップが課題。今後も北区のカフェを盛り上げていきたい！」と、気持ち十分のおふたりでした。

はい、こちらは認知症
コールセンターです！

このコーナーではコールセンターに寄せられる相談等を紹介します。

27年度、延べ相談1395件

平成27年度は相談実人数845件、相談延件数1395件でした。特に介護保険の未申請の方からの相談が多いのが特徴です。また、相談者の介護認定の状況からみた相談内容の傾向は次のとおりです。

●介護保険未申請

早期・初期の気づき

医療機関の受診

制度やサービスの利用方法

●要支援

周辺症状への対応方法

制度やサービスの利用方法

●要介護

周辺症状への対応方法

事業所・医療機関との関係

施設入所

どの相談も「相談者の心身の負担」に関する話題が多く、なっているため、具体的な支援につながるよう、まずは傾聴し、適切な関係機関の情報を提供しています。

1日あたりの
平均相談件数
(28年4月～10月)

5.2件

【あと書き】木枯らしの吹く季節がやってきました。徐々に師走の声も聞こえてくる時期、至るところで慌ただしい状況ですが、心にも余裕をもって過ごしたいですね。

これまで15回発行してきました『にんちしようNEWS』。名古屋の認知症の今が分かる『情報をお届けしたい』という思いから、今年度、装いも新たにリニューアルさせていただきました。今後は年4回発行していきます！よろしくお願いたします。